

A dynamic, painterly illustration of a warrior on a horse, likely a samurai, in a battle scene. The warrior is wearing traditional armor and holding a sword. The background is a bright, hazy landscape with a path leading towards the viewer. The overall style is reminiscent of traditional Japanese ink wash painting but with vibrant colors and a sense of motion.

# 戦国 BASARA2

「戦国BASARA2」

## 第28期中間報告書

平成18年4月1日から平成18年9月30日まで

(証券コード 9697)

# CAPCOM

## 会社の概要 (平成18年9月30日現在)

社名	株式会社 <b>カプコン</b> (CAPCOM CO., LTD.)
設立	昭和54年5月30日
主要な事業内容	家庭用テレビゲームソフトおよび業務用ゲーム機器等の企画、開発、製造、販売ならびにアミューズメント施設の運営
資本金	275億81百万円
従業員数	1,119名(連結1,253名)
主要な事業所	本社 大阪市中央区内平野町三丁目1番3号 研究開発ビル 大阪市中央区内平野町三丁目2番8号 東京支店 東京都新宿区西新宿二丁目1番1号 上野事業所 三重県伊賀市治田3902番地
ホームページ	<a href="http://www.capcom.co.jp/">http://www.capcom.co.jp/</a>

## 目次

会社の概要／株主の皆様へ	1
営業の概況	3
財務ハイライト	5
中間連結財務諸表	6
中間財務諸表	8
株式の状況／役員の状況／IR情報	10

## 株主の皆様へ



株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。ここに当社グループ第28期上半期(平成18年4月1日から平成18年9月30日まで)の営業の概況と中間決算についてご報告申し上げます。

当中間連結会計年度のわが国経済は、長引く原油高や株価の低迷がありました。堅調な設備投資や雇用情勢の改善、底堅い個人消費に支えられ、景気は回復軌道に乗ってまいりました。

当業界におきましては、家庭用ゲーム市場において次世代据置型ゲーム機の本格的な登場を控え、現行機の普及は一巡いたしましたものの、携帯型ゲーム機が中高年や女性等の初心者層の需要を掘り起こし、ユーザー層のすそ野を広げるなど快進撃を続けたことにより、市場拡大のけん引役を果たしました。

一方、オンラインゲーム市場はネット対応の携帯型ゲーム機の普及なども手伝って、着実に拡大してまいりました。

また、海外は北米市場がハード価格の値下げ効果等もあって、全体として順調に推移いたしました。

アミューズメント施設市場は店舗の大型化が進むとともに、カードゲームが盛り上がったことなどにより、おおむね回復基調を持続いたしました。

こうした状況のもと、当社グループは効率的な開発展開や販促イベント、アミューズメント施設の積極的な出店戦略を推し進めてまいりました。

また、携帯電話向けゲーム配信事業を強化するため、米国子会社を通じてカナダのモバイルゲーム開発会社コズミック・インフィニティー社の株式を取得し、完全子会社といたしました。

加えて、女兒や低年齢層など幅広い顧客層を開拓するため株式会社タカラトミーとキャラクター商品の開発、販売提携を行い、人気コンテンツを活用したコラボレーション展開を推進したほか、当社キャラクターとのシナジー効果を図るため、若年層に人気のあるトレーディングカードゲーム事業に参入いたしました。

この結果、連結売上高は291億75百万円(前年同期比4.9%増)となりました。

利益面につきましては、売上原価の減少により連結営業利益30億42百万円(前年同期比356.4%増)、連結経常利益37億85百万円(前年同期比317.2%増)といずれも増益になりましたが、連結中間純利益は19億18百万円となり、前中間連結会計年度において繰延税金資産に係る評価性引当金の見直しに伴う法人税等調整額を計上したこともあり、前年同期比38.6%の減益になりました。

また、中間配当につきましては、今年の10月12日に公表いたしましたとおり、従来の1株当たり10円から5円増配し、15円とさせていただきます。

今後の見通しといたしましては、当業界はネット機能が標準装備された次世代据置型ゲーム機が年内に出揃い、家庭用ゲーム機の盟主の座を巡って三つ巴の戦いが繰り広げられるとともに、ハードおよびソフトメーカー共に生き残りをかけて、業界の垣根を越えた再編が進むことも予想され、「勝ち組」と「負け組」の色分けが鮮明になってくるものと思われま。

こうした環境のもと、当社グループは家庭用ゲームソフトの最大の需要期である年末年始商戦に向けて、市場に適合した商

## To Our Shareholders

品の投入に加え、販売体制やマーケティング戦略の強化などに経営資源を集中するとともに、アミューズメント施設運営においても趣向を凝らした集客展開に取り組むなど、事業全般にわたる顧客満足度のアップや競争力の優位性を確保し、業績の向上に努めてまいります。

また、コア・コンピタンスである開発戦略としては、次世代据置型ゲーム機の登場に伴う高騰化傾向の開発費の抑制や効率的なマルチプラットフォーム展開を図るため、欧米のゲームソフト会社が行っている、パソコンをベースとした開発手法を推進してまいります。加えて、急成長しているネットワークゲーム市場に即応するため、オンラインゲームの拡充に注力してまいります。

一方、事業領域の拡大を目指して、平成18年10月にドワンゴグループとポータルサイトの運営会社の株式会社ダレットを設立し、新規顧客獲得に向けた本格的展開に着手いたしました。

さらに、成長シナリオの実現に向けて全体のベクトルを合わせるため、業務の効率化、財務構造の改革や各種の提携戦略の推進などにより経営環境の変化に対応できるよう、企業体質の強化に取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成18年11月

代表取締役社長

辻本憲三

### コンシューマ用ゲームソフト部門

オリジナルソフトの「デッドライジング」(Xbox360用)が欧米で予想を上回る大ヒットを放ち販売拡大のけん引役を果たすとともに、「戦国BASARA2」(プレイステーション2用)も順調に伸びました。

また、和のテイストを追求した新機軸ソフトの「大神」(プレイステーション2用)や「逆転裁判 蘇る逆転 Best Price!」(ニンテンドーDS用)が健闘したほか、前期に発売した「モンスターハンター ポータブル」(プレイステーション・ポータブル用)もリピートオーダーにより続伸びました。

この結果、売上高は157億35百万円(前年同期比9.5%増)、営業利益22億62百万円(前年同期は11億70百万円の営業損失)となりました。



「デッドライジング」  
(Xbox360用)

フリージャーナリストである主人公が、街に発生した大量のゾンビの群れを撃退しながら、事件の真相を突き止めていくというストーリー展開が話題となり、欧米で大ヒットを放ちました。また、好みのコスチュームを無料でダウンロードできるなど、オンライン機能も存分に楽しめます。



「戦国BASARA2」  
(プレイステーション2用)

前作でヒットしたシリーズ第2弾。戦国時代を舞台に史実にとらわれない独自のストーリーを加味してパワーアップ!また、豊富なキャラクターを活かしたトレーディングカードゲームとしても登場するなど、幅広い分野へ積極的に展開しております。

### アミューズメント施設運営部門

地元住民に愛されるファン感謝イベントの開催や多様な顧客ニーズに即応した人気ゲーム機の投入など、各種の活性化策により集客の向上に努めるとともに、意欲的なオペレーション展開を進め事業の拡大を図ってまいりました。

新規出店といたしましては、首都圏での地盤を堅固とするため、地域一番店を基本戦略に「プラサカブコン 千葉ニュータウン店」、「プラサカブコン 千葉長沼店」および「プラサカブコン 千葉マリニピア専門館店」の3店舗を千葉県にオープンいたしました。

これにより、当施設は33店舗となっております。

この結果、売上高は64億66百万円(前年同期比14.6%増)、営業利益11億37百万円(前年同期比3.2%減)となりました。



「プラサカブコン 千葉ニュータウン店」

イオン千葉ニュータウンショッピングセンター内にオープンした大型アミューズメント施設。親子連れと一緒に楽しめるキッズコーナーを併設するほか、各種イベントの開催などにより、幅広い顧客層に楽しんでいただける施設となっております。

### 業務用機器販売部門

「機動戦士ガンダムSEED DESTINY 連合vs. Z.A.F.T. II」が安定した人気に支えられ、順調に売上を伸ばしました。

また、女兒や低年齢層をターゲットにした前評判の高い業務用カードゲーム機「ワンタメ ミュージックチャンネル」を今年の9月末に投入し、注目を浴びました。しかしながら、販売の大半を占めたその他の既存商品が総じて伸び悩みましたため、微減収となりました。

この結果、売上高は43億67百万円(前年同期比0.8%減)、営業利益8億93百万円(前年同期比10.0%減)となりました。



「ワンタメ ミュージックチャンネル」

お気に入りの犬(パピー)をCMデビューさせるため、服やアクセサリなど80種類以上のカードを組み合わせおしゃれを楽しんだり、タッチパネル等を操作してダンスを楽しむカードゲーム。女の子に関心が高い「おしゃれ」、「アイドル」、「ペット」が反響を呼び、人気を集めています。

### コンテンツエキスパンション部門

携帯電話向けゲーム配信事業において、iモード向けが順調に伸びました。

また、海外戦略強化の一環としてカナダのモバイルゲーム開発会社を買収し、完全子会社とするなど、成長余力のある北米市場で攻勢に転じてまいりました。

一方、パチンコ・パチスロ事業は、下期の本格展開に向けた地ならし段階となりました。

この結果、売上高は13億33百万円(前年同期比39.7%減)、営業利益72百万円(前年同期比90.8%減)となりました。



「逆転裁判」

(携帯電話向けゲーム配信)

ニンテンドーDSなどで大人気の法廷アドベンチャーゲーム「逆転裁判」シリーズが、携帯電話でも楽しめます。

### その他の部門

その他の部門につきましては、主なものはキャラクター関連のライセンス事業で、売上高は12億91百万円(前年同期比8.7%増)、営業損失42百万円(前年同期は15百万円の営業損失)となりました。

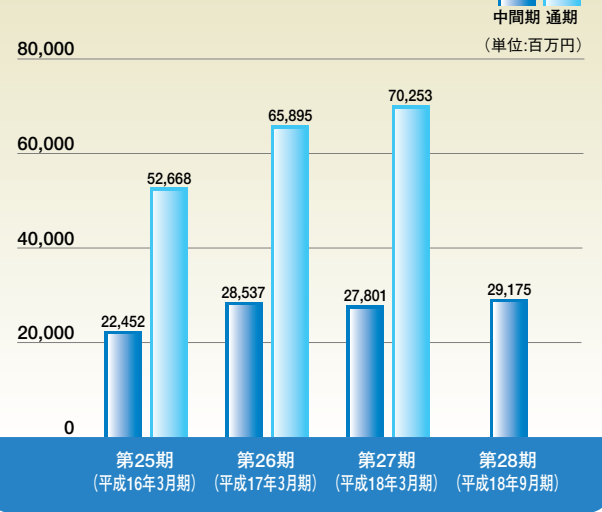


# 財務ハイライト

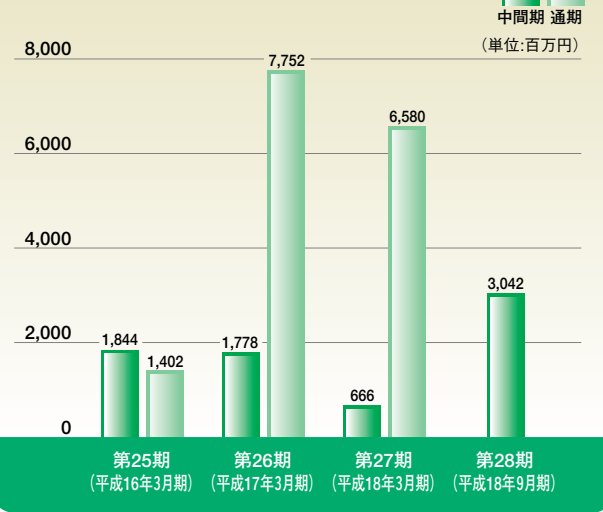
# Financial Highlights

# 中間連結財務諸表

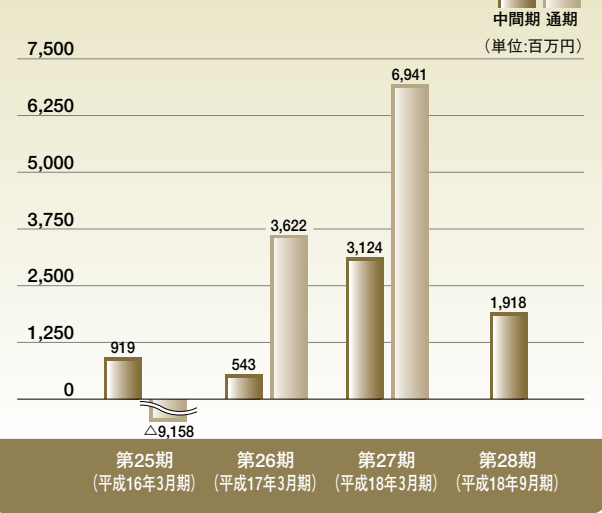
## ●連結売上高



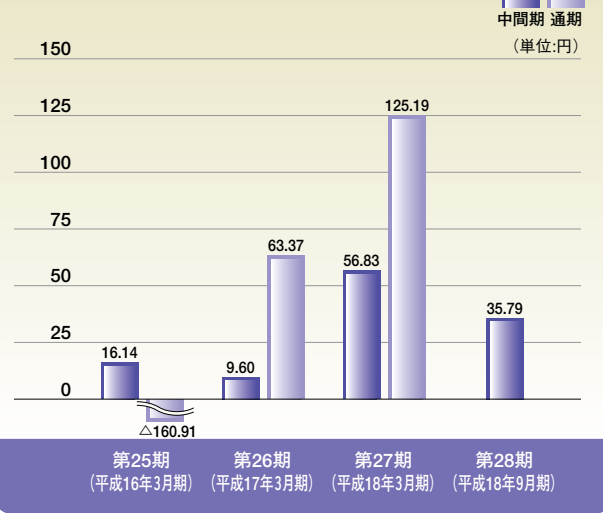
## ●連結営業利益



## ●連結中間(当期)純利益(△純損失)



## ●連結1株当たり中間(当期)純利益(△純損失)



## 中間連結貸借対照表

科目	期中	当中間期 (平成18年9月30日現在)	前中間期 (平成17年9月30日現在)	前期 (平成18年3月31日現在)
<b>【資産の部】</b>				
流動資産		63,910	62,313	68,075
現金および預金		35,871	33,667	40,453
受取手形および売掛金		11,496	9,955	12,812
たな卸資産		3,012	3,183	3,741
ゲームソフト仕掛品		5,427	9,633	6,348
繰延税金資産		2,733	4,106	3,266
その他		6,674	2,913	2,749
貸倒引当金		△ 1,305	△ 1,146	△ 1,295
固定資産		32,257	29,745	30,381
有形固定資産		14,634	13,808	13,820
建物および構築物		6,208	6,503	6,366
アミューズメント施設機器		2,856	2,057	2,064
建設仮勘定		144	—	73
その他		5,424	5,247	5,316
無形固定資産		1,859	523	333
投資その他の資産		15,764	15,413	16,227
投資有価証券		2,117	2,022	2,305
繰延税金資産		8,135	8,158	8,624
その他		6,256	5,674	6,010
貸倒引当金		△ 746	△ 442	△ 712
資産合計		96,168	92,058	98,457

### POINT 資産の部

流動資産は、自己株式の取得による現金および預金の減少などにより、前期末に比べ41億64百万円減少し、639億10百万円となりました。固定資産は、米回国子会社によるカナダのモバイルゲーム開発会社の全株式取得に伴う無形固定資産等の増加により、前期末に比べ18億76百万円増加し、322億57百万円となりました。この結果、資産合計は前期末に比べ22億88百万円(2.3%減)減少し、961億68百万円となりました。

### POINT 負債の部

流動負債は、支払手形および買掛金等の増加により、前期末に比べ3億4百万円増加し、272億46百万円となりました。固定負債は、長期借入金の減少などにより、前期末に比べ3億41百万円減少し、317億8百万円となりました。この結果、負債合計は前期末に比べ37百万円(0.1%減)減少し、589億55百万円となりました。

### POINT 純資産の部

純資産合計は、当中間期に自己株式を取得したことなどにより、前期末の資本合計に比べ22億51百万円(5.7%減)減少し、372億13百万円となりました。

科目	期中	当中間期 (平成18年9月30日現在)	前中間期 (平成17年9月30日現在)	前期 (平成18年3月31日現在)
<b>【負債の部】</b>				
流動負債		27,246	14,124	26,942
支払手形および買掛金		8,142	4,908	7,213
短期借入金		700	4,192	700
1年以内償還予定の転換社債		10,000	—	10,000
賞与引当金		346	232	1,062
その他		8,057	4,790	7,966
固定負債		31,708	42,273	32,050
転換社債		15,000	25,000	15,000
新株予約権付社債		11,500	11,500	11,500
長期借入金		3,780	4,480	4,130
その他		1,428	1,293	1,420
負債合計		58,955	56,397	58,992
<b>【資本の部】</b>				
資本金		—	27,581	27,581
資本剰余金		—	15,336	15,336
利益剰余金		—	△ 2,167	1,099
その他有価証券評価差額金		—	583	793
為替換算調整勘定		—	△ 558	△ 228
自己株式		—	△ 5,113	△ 5,117
資本合計		—	35,660	39,464
負債および資本合計		—	92,058	98,457
<b>【純資産の部】</b>				
株主資本		36,968	—	—
資本金		27,581	—	—
資本剰余金		15,336	—	—
利益剰余金		2,408	—	—
自己株式		△ 8,358	—	—
評価・換算差額等		244	—	—
その他有価証券評価差額金		636	—	—
その他		△ 391	—	—
純資産合計		37,213	—	—
負債純資産合計		96,168	—	—

(注) 今年5月に会社法が施行されたことに伴い、当中間期から新様式で表記しております。

中間連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	期別	当中間期	前中間期	前期
		(平成18年4月1日から平成18年9月30日まで)	(平成17年4月1日から平成17年9月30日まで)	(平成17年4月1日から平成18年3月31日まで)
売上高		29,175	27,801	70,253
売上原価		18,882	20,418	47,937
売上総利益		10,293	7,383	22,315
販売費および一般管理費		7,251	6,716	15,735
営業利益		3,042	666	6,580
営業外収益		865	454	1,089
受取利息および配当金		374	245	521
その他		490	208	568
営業外費用		121	213	653
支払利息		35	123	171
その他		85	90	482
経常利益		3,785	907	7,016
特別利益		104	114	116
特別損失		528	122	220
税金等調整前中間(当期)純利益		3,361	899	6,912
法人税、住民税および事業税		361	272	551
過年度法人税等		—	39	1,832
法人税等調整額		1,081	△ 2,536	△ 2,413
中間(当期)純利益		1,918	3,124	6,941

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	期別	当中間期	前中間期	前期
		(平成18年4月1日から平成18年9月30日まで)	(平成17年4月1日から平成17年9月30日まで)	(平成17年4月1日から平成18年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー		3,330	2,091	13,921
投資活動によるキャッシュ・フロー		△ 3,895	△ 636	△ 1,779
財務活動によるキャッシュ・フロー		△ 4,141	△ 13,864	△ 18,259
現金および現金同等物に係る換算差額		△ 97	737	1,232
現金および現金同等物の減少額		△ 4,803	△ 11,670	△ 4,885
現金および現金同等物の期首残高		40,652	45,538	45,538
新規連結に伴う現金および現金同等物の増加額		22	—	—
現金および現金同等物の中間期末(期末)残高		35,871	33,867	40,652

POINT 売上高

売上高は、コンシューマ用ゲームソフト部門において「デッドライジング」(Xbox360用)が欧米で予想を上回る大ヒットを放ったことやアミューズメント施設運営部門が増収となったことなどにより、291億75百万円(前年同期比4.9%増)となりました。

POINT 営業利益

営業利益は、増収効果に加え、売上原価の減少などにより30億42百万円(前年同期比356.4%増)と大幅に伸びました。

POINT 中間純利益

中間純利益は、営業利益や経常利益が大幅に増加したものの、前年同期に繰延税金資産に係る評価性引当金の見直しに伴う法人税等調整額を計上したこともあり、19億18百万円(前年同期比38.6%減)と減益となりました。

中間連結株主資本等変動計算書

当中間期(平成18年4月1日から平成18年9月30日まで)

(単位:百万円)

	株主資本				株主資本合計	評価・換算差額等				純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式		その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損	為替換算調整勘定	評価・換算差額等合計	
平成18年3月31日残高	27,581	15,336	1,099	△ 5,117	38,900	793	—	△ 228	564	39,464
中間連結会計期間中の変動額										
剰余金の配当			△ 549		△ 549					△ 549
役員賞与の支給			△ 60		△ 60					△ 60
中間純利益			1,918		1,918					1,918
自己株式の取得				△ 3,241	△ 3,241					△ 3,241
自己株式の処分		△ 0		0	0					0
株主資本以外の項目の中間連結会計期間中の変動額(純額)						△ 156	0	△ 162	△ 319	△ 319
中間連結会計期間中の変動額合計	—	△ 0	1,308	△ 3,240	△ 1,931	△ 156	0	△ 162	△ 319	△ 2,251
平成18年9月30日残高	27,581	15,336	2,408	△ 8,358	36,968	636	0	△ 391	244	37,213

中間貸借対照表

(単位:百万円)

科目	期別	当中間期	前中間期	前期
		(平成18年9月30日現在)	(平成17年9月30日現在)	(平成18年3月31日現在)
【資産の部】				
流動資産		47,777	47,560	52,359
現金および預金		23,727	21,933	27,422
売掛金		7,492	7,898	10,630
有価証券		—	199	199
たな卸資産		2,316	2,231	2,905
ゲームソフト仕掛品		5,437	9,427	5,614
繰延税金資産		1,993	2,204	2,519
短期貸付金		2,253	1,470	2,297
その他		5,709	3,140	1,941
貸倒引当金		△ 1,154	△ 945	△ 1,171
固定資産		44,640	44,792	43,977
有形固定資産		3,979	2,776	2,955
無形固定資産		287	498	305
投資その他の資産		40,373	41,517	40,716
資産合計		92,417	92,352	96,336
【負債の部】				
流動負債		22,977	11,385	23,574
支払手形		3,486	1,146	2,639
買掛金		2,773	2,381	3,458
短期借入金		—	3,492	—
1年以内償還予定の転換社債		10,000	—	10,000
未払法人税等		123	77	1,884
賞与引当金		296	106	929
返品調整引当金		132	111	349
その他		6,163	4,069	4,314
固定負債		27,801	37,782	27,762
転換社債		15,000	25,000	15,000
新株予約権付社債		11,500	11,500	11,500
退職給付引当金		880	780	816
その他		420	501	446
負債合計		50,778	49,167	51,336
【資本の部】				
資本金		—	27,581	27,581
資本剰余金		—	15,336	15,336
利益剰余金		—	5,099	6,708
その他有価証券評価差額金		—	281	491
自己株式		—	△ 5,113	△ 5,117
資本合計		—	43,185	45,000
負債および資本合計		—	92,352	96,336
【純資産の部】				
株主資本		41,304	—	—
資本金		27,581	—	—
資本剰余金		15,336	—	—
利益剰余金		6,744	—	—
自己株式		△ 8,358	—	—
評価・換算差額等		335	—	—
その他有価証券評価差額金		335	—	—
純資産合計		41,639	—	—
負債純資産合計		92,417	—	—

(注)今年5月に会社法が施行されたことに伴い、当中間期から新様式で表記しております。

中間損益計算書

(単位:百万円)

科目	期別	当中間期	前中間期	前期
		(平成18年4月1日から平成18年9月30日まで)	(平成17年4月1日から平成17年9月30日まで)	(平成17年4月1日から平成18年3月31日まで)
売上高		21,438	21,774	53,925
売上原価		15,655	16,335	38,357
売上総利益		5,783	5,438	15,568
返品調整引当金繰入額		—	—	138
返品調整引当金戻入額		216	99	—
差引売上総利益		5,999	5,538	15,429
販売費および一般管理費		4,463	4,136	9,482
営業利益		1,535	1,402	5,947
営業外収益		306	441	854
営業外費用		68	524	1,177
経常利益		1,773	1,319	5,624
特別利益		104	114	116
特別損失		545	122	436
税引前中間(当期)純利益		1,332	1,311	5,304
法人税、住民税および事業税		73	179	379
過年度法人税等		—	39	1,832
法人税等調整額		613	△ 2,423	△ 2,583
中間(当期)純利益		646	3,516	5,675

中間株主資本等変動計算書

当中間期(平成18年4月1日から平成18年9月30日まで)

(単位:百万円)

	株主資本					純資産計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	
平成18年3月31日残高	27,581	15,336	6,708	△ 5,117	44,508	45,000
中間会計期間中の変動額						
剰余金の配当			△ 549		△ 549	△ 549
役員賞与の支給			△ 60		△ 60	△ 60
中間純利益			646		646	646
自己株式の取得				△ 3,241	△ 3,241	△ 3,241
自己株式の処分		△ 0		0	0	0
株主資本以外の項目の中間会計期間中の変動額(純額)						△ 156
中間会計期間中の変動額合計	—	△ 0	36	△ 3,240	△ 3,204	△ 3,361
平成18年9月30日残高	27,581	15,336	6,744	△ 8,358	41,304	41,639

BIOHAZARD 10th ANNIVERSARY



(写真付き切手) (特製ブックレット)

平成8年に発売された当社の看板タイトル「バイオハザード」が今年で10周年を迎えました。これを記念して、「バイオハザード」のイラストが付いた写真付き切手がオリジナル特製ブックレットとセットになって、期間限定(平成18年9月20日から平成18年11月20日まで)で予約販売され、ゲームソフトとの相乗効果が期待できます。

株式の状況 (平成18年9月30日現在)

- 発行可能株式総数 150,000,000株
- 発行済株式の総数 58,435,819株
- 株主数 18,326名
- 大株主(上位10名)

株主名	持株数	出資比率
	千株	%
有限会社クロスロード	6,771	11.59
辻本憲三	2,900	4.96
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,331	3.99
モルガンスタンレー・アンド・カンパニー・インク	1,676	2.87
辻本美之	1,669	2.86
辻本良三	1,545	2.65
辻本春弘	1,545	2.65
ドイチェンバンク・ア・ゲー・ロンド・ビー・ビー・ノット・リ・ティ・ク・アイ・ア・ン・ツ・613	1,467	2.51
ドイチェンバンク・ア・ゲー・ロンド・ビー・ビー・アイ・リ・シュ・レ・ジ・デン・ツ・619	1,459	2.50
バンク・オブ・ニューヨーク・シー・エム・クワイ・ア・ム・ア・カン・ツ・イ・ア・イ・エ・ジ・	1,332	2.28

(注)当社は、自己株式5,973千株を保有しておりますが、上記大株主から除外しております。

役員状況 (平成18年9月30日現在)

- 代表取締役社長 辻本憲三 監査役(常勤) 山口省二
- 取締役(副社長執行役員) 辻本春弘 監査役(常勤) 平尾一氏
- 取締役(専務執行役員) 初野純孝 監査役 黒田守雄
- 取締役(常務執行役員) 飛澤宏 監査役 中山好雄
- 取締役(常務執行役員) 阿部和彦
- 取締役 小田民雄
- 取締役 北村恭二
- 取締役 堀紘一
- 取締役 家近正直

(注)1. 取締役 北村恭二、堀 紘一および家近正直の各氏は、社外取締役であります。  
2. 監査役 山口省二、黒田守雄および中山好雄の各氏は、社外監査役であります。

IR情報

カプコンIRサイトのご案内 <http://ir.capcom.co.jp/>

当社では、株主や投資家の皆様に最新情報をタイムリーに提供することを目的として、ホームページを活用したIR活動にも注力しております。カプコンIRサイトでは、財務データや株式情報に加え、経営戦略など様々な情報提供を行っております。

最新情報

いま注目すべきIR情報を大きく中央に表示していることに加え、新着情報やプレスリリースなどの最新情報を素早く確認できるシステム(RSS)にも対応しております。

IR資料室

マーケットデータや人気ソフトの販売本数をグラフや画像等でわかりやすく掲載するとともに、決算説明会の模様をパソコン上で閲覧できるだけでなく、動画をポッドキャストにも対応させるなど、豊富な情報を取り揃えております。

個人投資家の皆様へ

当社をより深くご理解いただけるよう「当社の強み」や「市場動向」などをわかりやすくご説明しております。

カプコンIRメール

メールアドレスをご登録いただけますと、プレスリリースや決算資料などの最新情報をメールにてお知らせいたします。

携帯電話からご利用の場合 <http://m-ir.jp/c/9697>



当社の業績概況や株式情報が携帯電話から閲覧できるほか、株価の終値や最新のリリース情報も閲覧できます。QRコード(二次元コード)の読み取りに対応した携帯電話をお持ちの方は左の画像を読み込むと簡単にアクセスできます。

※読み取り方法についてはお手持ちの携帯電話取扱説明書をご覧ください。

## 株主メモ

定 時 株 主 総 会 毎年6月中  
基 準 日 定時株主総会 3月31日  
剰余金の配当  
期 末 配 当 3月31日  
中 間 配 当 9月30日

単 元 株 式 数 100株  
株 主 名 簿 管 理 人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号  
三菱UFJ信託銀行株式会社

同 事 務 取 扱 場 所 〒541-8502  
(お 問 合 わ せ 先) 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号  
三菱UFJ信託銀行株式会社  
大阪証券代行部  
電話(通話料無料) 0120-094-777

同 取 次 所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店  
野 村 證 券 株 式 会 社 全国本支店

○株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行の電話およびインターネットでも24時間承っております。

電話(通話料無料)  
0120-244-479 (本店証券代行部)  
0120-684-479 (大阪証券代行部)

ホームページ  
<http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

公 告 方 法 電子公告  
当社のホームページ(<http://www.capcom.co.jp/>)  
に掲載します。  
ただし、やむを得ない事由によって電子公告による公  
告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載  
します。

上 場 証 券 取 引 所 東京・大阪証券取引所

# 株式会社 カパコン



環境に配慮し、再生紙と大豆インキを使用しております。